

第 18 回日本消化管学会学術集会・第 49 回日本潰瘍学会合同セッション

「術後に生じる消化管潰瘍の病態と治療」

司会 河合 隆（東京医科大学消化器内視鏡学）

浦岡 俊夫（群馬大学大学院消化器・肝臓内科学）

消化管内視鏡治療の進歩は近年目覚ましく、これまで一括切除が困難であった大型や線維化を伴う早期病変は ESD にて治癒切除が得られるようになってきたが、遅発性出血・穿孔や狭窄などの術後潰瘍に関する偶発症への対策に課題が残る。

本セッションでは、開腹手術から ESD まで全消化管に生じる術後潰瘍の病態と治療についての研究、対処法および新しい取り組みについて、可能性や課題などを含めてご発表いただきたい。